



2025年11月18日

各 位

会 社 名 株式会社パシフィックネット
代表者名 代表取締役社長 上田 雄太
(コード番号 3021 東証スタンダード)
問合せ先 取締役 杉 研也
(電話番号 03-5730-1442)

2026年5月期 第1四半期決算 質疑応答集

本質疑応答集は、2025年10月15日（水）の2026年5月期 第1四半期決算発表以降、機関投資家との面談や個人投資家からいただいたご質問を取りまとめたものです。内容の分かりやすさを考慮し、一部表現の修正および加筆を行っております。

【2026年5月期 決算発表 ご参考資料】

■2026年5月期 第1四半期 決算説明資料

https://www.prins.co.jp/_file/ja/article/5381/pcn_ir_file/2/

■2026年5月期 第1四半期 決算短信〔日本基準〕（連結）

https://www.prins.co.jp/_file/ja/article/5380/pcn_ir_file/2/

■【2026年5月期 第1四半期】決算情報のポイント

メディアプラットフォーム「note」にて公開しております。

https://note.com/pacificnet_3021/n/n4d8eb5d195a4

■2026年5月期 第1四半期決算説明動画および書き起こし記事公開

決算説明動画

<https://youtu.be/-4QFXfBABRc>

決算説明動画 書き起こし記事

https://note.com/pacificnet_3021/n/n6d0260a4602d

■質疑応答内容

業績と見通し

Q1. 今回の決算を見ると、予算進捗を大きく上回る利益となっている。この好調な業績について、会社としてどのように見ているのか。

A1. 今回の上方修正について、当社としては次のように捉えています。

まず、業績を下支えしているのはサブスクリプション事業のストック収益です。お客様にご利用いただく端末や関連サービスが着実に積み上がっており、安定的なキャッシュフローを生み出す土台が年々厚くなっています。そのうえで、第1四半期は Windows 11 への更新需要を追い風に IT AD事業が想定以上に伸びました。コミュニケーションデバイス事業も堅調に推移しています。

また、第1四半期は採用や設備増強といった先行投資がまだ本格化していなかったため、増収効果がほぼストレートに利益に反映された点も大きいと考えています。

これらのプラス要因は第2四半期以降も続く見込みですが、人的資本や設備などの先行投資も見込んでおり、現在の予想としております。

Q 2. ITサブスクリプション事業のセグメント利益率が大きく変わって見えるが、要因は何か。

A 2. 単純に増収効果と、繁忙期に伴う出荷・キittingなどスポット案件の増加によるものです。稼働率も高水準を維持しています。不稼働資産が発生しないよう定期的に適正な在庫管理をしており、在庫の健全化が利益率に寄与しました。第1四半期時点では採用増が抑制的で、コスト増も限定的でした。賃上げ（全体で約9%）は8月から実施したため、当該四半期の費用には影響しておらず、人材への投資がまだ本格化していなかったことも利益率の押し上げ要因となりました。

Q 3. ITAD事業が好調だった要因は何か。

A 3. 入荷の増加に加え、取扱品の品質が高く、相場も上昇傾向にあったことが寄与しました。また、データ消去や排出管理BPOなどのサービス売上も伸びています。固定費を抑える運営を徹底しており、利益率はおおむね想定どおりです。

市場環境・リスク

Q 4. Windows 10 のサポート終了が2025年10月に迫っているが、今回の好調な業績はこのリブレース特需によるものではないか。Windows 11 への入れ替え需要後の成長戦略はどのように考えているか。

A 4. Windows 10 の更新需要は追い風であり、一定の影響はあると考えておりますが、IT人材の不足による需要拡大が引き続き継続すると見込んでいます。ITサブスクリプション事業はOS更新サイクルの影響を受けにくく、2025年以降も継続的な成長を見込んでいます。AI-PCの普及も追い風です。

一方、ITAD事業は入替需要の波を受けやすいものの、データ消去や排出管理BPOなどのサービス収益を拡大することでボラティリティを抑え、更新期後も安定成長を目指しています。今回のリブレース対応を通じて新規顧客接点も拡大しており、継続的な取引につながる関係構築が進んでいます。

Q 5. Windows 11 への移行需要の進捗はどうか。駆け込み需要はあるか。

A 5. 移行対応はすでに一巡しており、今回の好調な業績は移行需要の影響だけではありません。

ITサブスクリプション事業における契約積み上げが着実に進んでおり、安定したストック収益が拡大していることが大きな要因です。

また、高い水準の稼働率維持や在庫管理の徹底など、オペレーション面の改善効果も寄与しています。一部の中小企業では今後も更新需要が残るものの、急激な「駆け込み需要」は限定的であり、当社としてはストック収益を中心とした安定成長を見込んでいます。

Q 6. ITAD事業の今後の見通しはどうか

A 6. Windows 10 サポート終了後、一定のタイムラグを経て排出が増える傾向があります。企業の情報システム部門では排出が後回しになりやすく、全社の機器を1か所に集めてからデータ消去・排出を行うケースが多いため、一定の時間を要します。そのため、今期中は引き続き堅調な需要が見込まれます。Windows 11 への移行完了後には一時的な落ち着きも想定されますが、年内か

ら期末（５月）までは良好な業績が見込まれ、来期がひとつの分岐点となります。

今後に関しましては、入荷台数は減少するものの、中古相場の上昇、ＢＰＯ・データ消去などサービス収益の拡大が寄与し、一定の利益水準を維持できると考えております。

また、サブスクリプションのストック収益が大きく積み上がっているため、ＩＴＡＤ事業の反動局面もカバーできる体制が整いつつあります。今期中にストック収益をさらに積み上げ、来期以降の安定成長につなげていく方針です。

Ｑ 7． Ｇ Ｉ Ｇ Ａスクール端末の大量処分需要は業績にどの程度影響するか？

Ａ 7． Ｇ Ｉ Ｇ Ａスクール構想により、全国の教育機関に約900万台のＰＣ・タブレットが導入されたと推定されており、これに伴い、教育機関やメーカー、販社等からデータ消去に関するご相談を多くいただいております。ただし、Ｇ Ｉ Ｇ Ａスクールで導入されているＰＣはChromebookが多く、再販価値は相対的に低いため、当社としてはデータ消去をはじめとするサービス収益に重点を置いています。また、教育委員会の予算に左右される側面があるため、限られたリソースを効率的に活用し、収益が見込める案件に集中して取り組む方針です。なお、現時点ではＧ Ｉ Ｇ Ａスクールの影響は不透明なため、業績予想に織り込んでおりません。

成長戦略

Ｑ 8． Ｍ&Ａに対する考え方は？

Ａ 8． まずは既存の３事業におけるシナジー拡大（例：ＩＴサブスクリプション事業からＩＴＡＤ事業へのクロスセル）を最優先としております。相乗効果が見込まれる周辺領域については、Ｍ&Ａも選択肢として検討いたしますが、当面は既存事業の深化と拡張を中心に推進してまいります。

財務・株主還元

Ｑ 9． 貸借対照表を見ると、前期と比較して資産が大きく増加している。この資産増加の主な要因は何か。また、在庫の増加や売掛金の増加が見られるが、事業運営上の問題はないのか。

財務健全性についても併せて説明してほしい。

Ａ 9． 資産増加の主因は、成長投資に伴うサブスクリプション（レンタル）資産の積み上がりです。ＩＴサブスクリプション事業の拡大に伴い、金融機関からの借入を強化しております。調達した資金はすべてサブスクリプション資産の調達を目的としたものであり、事業成長に不可欠な投資であります。

また、サブスクリプション資産は資金回収リスクが低いため、安全な投資となります。調達にかかるコストと収益はしっかりと管理しており、キャッシュフローに無理のない綿密な計画を立てて返済を実行しております。よって、財務の健全性の面でも問題はないと考えております。

【免責事項】

・本資料は、当社の事業に対する理解を深めていただくための情報提供を目的としており、当社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。

・本資料に含まれる将来の業績見通しに関する記述は、現時点で入手可能な情報に基づいて判断したものであり、当社として将来の業績を保証するものではありません。業績は環境の変化などにより、実際の結果と異なる可能性があることにご留意ください。

■本件に関するお問い合わせ先

株式会社パンフィックネット IR 担当

ir@prins.co.jp

以下、お問い合わせフォームもご利用ください。

[IR お問い合わせ](#) | [トップページ](#)

以上